

ヨーロッパ切花の輸出

スペイン語学科 4年
室 谷 朋 子

「ホーリーマリカの農業は現在、「トマトやバナナ」と「トマト」が統的農業から、それまでの地域では作られてこなかったレタスやイチゴなど、先進国のおおむねトマトに応えた非伝統的農業といつもの上変化してくる。南米の国「ローランド」と、うど「トマト」を連想する人は多い」と思うが、現在の国でも切花の輸出が増えてしまつて、では今なぜ「ローランド」で切花なのか。それには傷みやすい生花の輸出を可能にする国際空港の存在といつ地理的因素もある。しかし、わざと重要なものばかりでは世界の生産国地位を占めていたローラード輸出経済の崩壊である。まだ切花の輸出産業において、他の「ホーリーマリカ」とともに共通する労働条件などの問題もある。非伝統的農業は発展していくとは云々、「トマト」産業と共にする問題は依然と続いている。

本稿では以上の点について検討する。

から一九七〇年代にかけてのJINDIであった平均二三㌧であった。当時の「アヒート市場はFOTOCOが調整して、これらの「アヒート農家が利益を得て、このよつの時代は長くは続かなかつた。

(2) テレビ経済の転機

一九八〇年代に入ると「ノーブル・アメリカ諸国では、新自由主義」と呼ばれる経済モードが推奨され、貿易自由化、外資規制緩和、公営企業の民营化等が実地された。その影響は世界のコーヒー市場も免れず、八〇年代にはネスレやハイコシップ、モリスなどの主要な多国籍企業が「コーヒー」をより低価格で買おうと競い合つた。しかし「これは「ロブスト」には不利に作用した。なぜならば、「ロブスト」の「コーヒー豆は水洗式アラビカ種」と呼ばれるものであり、フランジル等が生産するロースタ種より高品質で味の良いものとされており、最も安い豆を買つ付けるといひ利益を上げようとしていた多国籍企業の意にそぐわぬものがだからである。

怪談の世界

い、弱体化した。その影響せんじに依存して、た「アービー農家」にも及んだ。

「一九七〇年」に及ぶとされてくるが、実際の生産面積は一〇〇万ヘクタールと推定される。「ロクヒマニア」の「ヒーリー栽培は「ワジル」と異なり、栽培適地が山地の傾斜部に限定されるため、大規模な機械化された「ランチーシン」が成立せず、営業規模の小さな「ヒーリー園」が主体である。「ヒーリー園」の数は三〇万余り、そのうちの九三・八パーセントが一〇ヘクタールまでの小規模農園であり、全国栽培面積の約六〇パーセントを占める。「ヒーリー産業」では一年を通じて多くの労働力を必要とするが、雇用数は全般的な経済状況に左右される。そのため、「ロクヒマニア」の全労働者の五パーセントから七・五パーセント、農業部門労働者の十九パーセントから二〇パーセントの間で大きく変動している（一九八〇年）。

また、農林水産業は一〇年でそれほど変化が

な」とがわかる。しかしながら表1をみると「ナヒー産業は一九八〇年代にぐぐて明らかに衰退しており」がわかる。そして他の産業が成長していくのがわかり、そのなかで切花などは生産額も増加する。「この二つが推測され

なぜ「アート」は「アート」

(一) ブラジル 農業の発展
「ロハニアのトマト」は、七八年にベネズエラからオリノコ川流域地方、タバケのサンタテレサに伝えられ、その後、サンタマルタ、リオアチャ等に広がった。
「ロハニア」トマトの輸出が始めたのは八二五年の事である。一九一〇年代には農業分野の主要生産物になるとともに、輸出取引の五〇パーセント以上を稼いだ。しかし、すぐさま市場の低迷や品質問題などの諸問題が発生し、一九一八年には、「ロハニア 国立トマト連盟（FZC）」が発足した。これはトマト生産者を代表する同業者組合であった。南米の「トマト」価格がピークに達したのは一九六〇年代後半

「これまで海外市場を開拓する」と

で「アート産業の保護と発展を図ってきたが、輸出の低迷をまねく、非伝統輸出農産品への転作を推進するようになった。八〇年代にはアートや熱帯果実、木材、酪農品等のほか、切花産業も成長し始めた。

3. 伸びて来たのはあなたが始めたのか
(1)切花輸出が確立された年だ
会社は國內むけに作られていましたが、切花業者が拡大するにつれて、海外の市場に目が向けられ始めた。一九六五年にIDA(United Nations Development Program)の切花の生産量の五・十ペーセントである。残りはすべて輸出用だった。主な輸出先地域は北米がハーフ、ヨーロッパ、アメリカ合衆国がハーフセントと大半を占める。アメリカ合衆国がハーフの輸出額とナバーハーフである。ただし、米国市場ではダンピング課税問題も発生しており、欧州市場向け輸出の拡大や、日本を含む輸出先の多角化が求められている。表三からもわかる

かた。しかし、一九六〇年代半ば過ぎから、切花産業が拡大するにつれて、海外の市場に目が向けられ始めた。一九六五年にIDA(United Nations Development Program)の切花の生産量の五・十ペーセントである。残りはすべて輸出用だった。主な輸出先地域は北米がハーフ、ヨーロッパ、アメリカ合衆国がハーフセントと大半を占める。ただし、米国市場ではダンピング課税問題も発生しており、欧州市場向け輸出の拡大や、日本を含む輸出先の多角化が求められている。表三からもわかる

通年栽培、良い道路網、そして国際空港の存在である。

ついで、一九六七年のパンホーフ・ブリッジの開通で、世界の花卉貿易の一大セ

金額が、一〇〇〇年には六億ドル近く、金額の取引をし、右肩上がりの成長を示す。これが、世界で第一位の輸出国であり、十ペーセントのシェアを占め、日本でも近年はカーネーションや「ローハーフ」から輸入している。輸入は、一〇〇四年度には三三三億円である。オランダ、韓国などを抜いて、

マーチャンダイジ第一社となつて。¹⁾

生産された花の品目は、バラが二十九パ

セント、カーネーションは一七ペーセント、ミカーネーションが九ペーセント、キクが「ペーセントである。「ローハーフ」の切花輸出が始めた一九六〇年代末には、主に作られたのはキクやカーネーションなどである。その後、栽培技術の向上、インフレの結果、バラの生産がはじまり、一九九六年には売上高でカーネーションを上回り、二〇〇一年には六百二十億円である。ただし、米国市場ではダンピング課税問題も発生しており、現在では五百種を超える花が生産されている。

4 「ローハーフ」の切花産業における問題点

(1) 労働者と栽培地域

今日、「ローハーフ」を越える切花の栽培輸出業者が存在している。九〇ペーセント近くの生花の栽培業者は都市周辺の農村地域にある。このうち、ボリタ高原のサバナには八五ペーセントが集中している。残りはリオネンコである。農業経営には莫大な初期投資が必要とするにもかかわらず、その栽培面積は六五〇〇ヘクタールを超える。また、栽培農家は四五〇人以上に達し、労働人口は、農家や加工者などの直接労働者および九万四〇〇〇人、関連部門の労働者がおよそ八万人である。

切花生産は、労働集約的な産業である。八〇年代では、一ヘクタールにつき約一五人の労働者が必要とされていたが、最近では自動水撒き機や作付け機なども使われ始め、一ヘクタールにつき一五人程度とされてる。そのほかに化学肥料やビーチカルの導入なども進み、雇用人数が今後減つて、可能性は充分考へられる。

一方、労働者の平均学歴は低く、労働者の二〇パーセントが初等教育を終り、わずか一〇パーセントのみが中学を卒業している。切花の農園で働くつえで、労働者はそれほどの知的能力を必

要とされる。区間」といふよく管理者にはその能力を必要とされる場合もあるが、それでも栽培技術や算数、読み書きなどのたゞ基本的な知識といふ足りない。そのため、このことは必ず農村地域で労働者を雇つけるを躊躇してしまふ。採用は現地で行われる。農村労働者は必ず仕事量と従属性で企業に好まれて、このため、彼らは労働者の六七ペーセントは「〇から九歳まで、大半が若い労働者である。その労働者勤続年数は、一企業につき五・六年である。

農園の多くは午前六時より仕事が始まり、午後三時まで終わる。しかし農繁期などは四時間ほど伸びる」ともある。

「ローハーフ」でも健康基準が確定されたが、せどんじ遵守されず、「ローハーフ」の切花産業の女性労働者はリスクを負いつけてる。病院には女性労働者の多くが頭痛、吐き気、ビールitus内の高温の環境などで湿潤なために繁殖したカビやバクテリアに感染して引き起こす発熱や失神の症状を訴え、多くの女性が病院にわざわざ来るが、そのほとんどが皮膚やシメにぶれた殺虫剤の毒性によるものとも考えられてくる。

切花産業で働く女性の多くは、十五歳から一

年栽培、良い道路網、そして国際空港の存

在である。

ついで、一九六七年のパンホーフ・ブリッジの開通で、世界の花卉貿易の一大セ

金額が、一〇〇〇年には六億ドル近く、金額の取

引をし、右肩上がりの成長を示す。これが、世界で第一位の輸出国であり、十ペーセントのシェアを占め、日本でも近年はカーネーションや「ローハーフ」から輸入している。輸入は、一〇〇四年度には三三三億円である。オランダ、韓国などを抜いて、

マーチャンダイジ第一社となつて。¹⁾

生産された花の品目は、バラが二十九パ

セント、カーネーションは一七ペーセント、ミカーネーションが九ペーセント、キクが「ペーセントである。「ローハーフ」の切花輸出が始めた一九六〇年代末には、主に作られたのはキクやカーネ

ーションなどである。ただし、米国市場ではダンピング課税問題も発生しており、現在では五百種を超える花が生産されている。

「ローハーフ」でも健康基準が確定されたが、せどんじ遵守されず、「ローハーフ」の切花産業の女性労働者はリスクを負いつけてる。病院には女性労働者の多くが頭痛、吐き気、ビールitus内の高温の環境などで湿潤なために繁殖したカビやバクテリアに感染して引き起こす発熱や失神の症状を訴え、多くの女性が病院にわざわざ来るが、そのほとんどが皮膚やシメにぶれた殺虫剤の毒性によるものとも考えられてくる。

切花産業で働く女性の多くは、十五歳から一

八歳で、二・二・八・パーセントの女性がシンケルギヤーである。彼女たちの多くが家族を支えたために働かなければならぬ女性たちだが、三・五歳以上の女性は不適に解雇されることが多い。妊娠でも産後も残業を強づられ、セクシャリハラバメントもある。法律ではそのような就労が一応禁じられてはいる。だがそのような不条理な条件下でも生活がかかるために訴えられないのである。

(3)子供の労働者

「ローハルア」の法律では、二・一・七歳の子供は彼らの健康、安全、精神を害さない限り就労できるとしている。つまり、切花産業においても企業は未成年者を雇うことができるのである。未成年就労者のうち大半は一五歳～一七歳である。企業は直接未成年者に就労を働きかける。未成年就労者は学校の長期の休暇期間中に、短期で働く場合が多い。中には労働時間の制限を決める「まま契約」を結ぶケースもある。

未成年労働者は、生花農場、加工場のいたるところにいたる。さまざま企業が子供に消費の仕事をやらせている。しかし、これは違法で

(3)子供の行動者

したまでも、「アーネ」の場合ペトナムと同じく、賃金の安い国々に先進国が田をつける可能性は充分に考えられる。

ある。一方、農村では小さな頃から仕事を手伝うのが普通である。そのため切花産業で子供が働くことも当然のこととして受け入れられてくる。彼らは家計を助けるために、親と同じように辛い仕事をこなすのである。

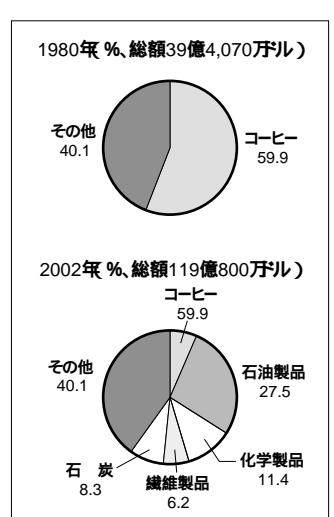
ある。また、試用期間のみで解雇されてしまふ労働者も存在する。

5 まとめ

「ローハニア」の切花産業は非伝統的農業といわれる、比較的新しい農業形態である。これは一九八〇年代からラテン・アメリカで顕著になってきたもので、それまで「アヒー」や「バナナなど」を中心として輸出してきた国々が、切花から養殖の魚、ワインまでさまざまなものを輸出するようになった。これによりて「ラテン・アメリカ諸国は外貨を獲得し、八〇年代に危機に陥った経済をなんとか立て直そう」としてゐる。一方、先進国の国々は安くしておこなうもの、こゝものを手に入れることができた。

では果たして「ローハニア」アメリカの経済はいつつた非伝統的農産物の輸出によって発展しつるか。「ローハニア」の「アヒー」は八〇年代に危機に陥った。その理由のひとつに経済の自由化がある。それは現在でも続いている。切花が今後もこの自由主義経済のもとで発展を続けられるかどうか、基本的には見通しは暗い。現在では中国など、なじアジア諸国も切花産業に進出

表 | **拉丁美洲统计年鉴**
(**ECLAC**) Anuario Estadistico de America

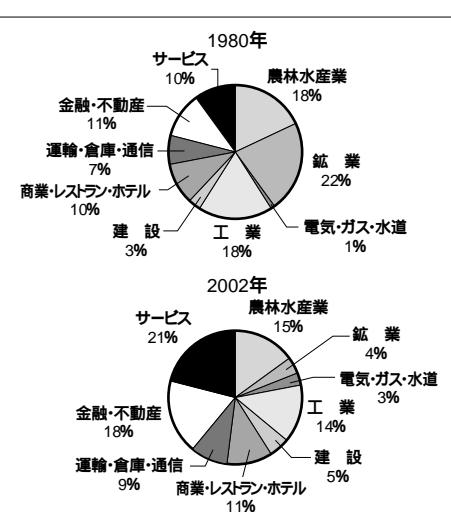


表II 輸出金額の推移(一〇〇〇ユニ)

1965	20
1970	991
1975	19,504
1980	101,361
1985	140,778
1990	228,887
1995	475,783
2000	585,591

- 萩原法入世野・経済情報センター
「アソシエーション」の「PPAL」
「100日計画」
- 大原美範選「PPAL～世界の競争力をいかに～」
著書新刊社出版「大原田洋」
- Asociación Colombia de Exportadores de Flores
<http://www.asocoflores.org/site/ppal.php>
- International Coffee Organisation
- Rose Trade and the Environment
<http://www.american.edu/projects/mandala/>

表一 國民銀行營業據出
(主監)Banco de la Republica, Julio de 2003



- TED/rose.htm
<http://coffee.aica.or.jp/top.html>
- FAOSTAT Database Collections
<http://faostat.fao.org/faostat/collections?versionId=ext&hasbulk=0>
- Employment and working conditions in the Colombian flower industry
<http://www.iilo.org/public/english/dialogue/sector/papers/workcol/>
- パンフレット
<http://www.jca.aoc.org/kmasuoka/places/coffeefee.html>

TED/rose.htm
金口本「トーナー監修」